

	項 目	概 要	ご意見	担当課	現在及び今後の対応
1	情報活用能力の育成	(1) 情報活用能力のとらえ (2) 情報活用能力育成のビジョン	・情報活用能力とは何か、どう育成するのか ・情報活用能力育成のビジョンを示す必要性がある	教育指導課 教育センター	(1) 情報活用能力のとらえ ・情報活用能力は、情報端末等を使いこなす力だけでなく、図書館などで本や資料を探すことや、情報や課題を整理・比較することなども含め、多様な情報を適切に取り扱い、発信・伝達することを通して、児童生徒が自ら学びを選択したり自己調整したりするなど、主体的に学び続けるための基盤となる力である。「仙台版情報活用能力学習目標リスト」では「活動スキル」「探究スキル」「プログラミング」「情報モラル」の4つに分類し、小・中学校において体系的に情報活用能力を育成できるように努めている。 (2) 情報活用能力育成のビジョン ・本市の学校教育情報化推進計画の基本理念である「これからの社会をたくましく、しなやかに生き抜く力を育む」ために、児童生徒が情報活用能力を発揮し、自ら学習を調整しながら粘り強く取り組む態度を育成し、様々な学びを通して豊かな創造性を育んでいく必要がある。 ・現在、各学校には「情報活用能力の育成に向けた年間指導計画」の作成例を示し、教科等横断的な視点から児童生徒の情報活用能力の育成が図られるよう指導助言を行っている。また、教育課程ヒアリングや教育課程訪問の取組を通して、児童生徒の情報活用能力をはじめ、育成を目指す資質・能力を育むことができるように、教育課程の編成や実施状況を確認し、各学校への助言や支援を行っている。 ・今後は、策定される（仮）仙台市教育構想2026の基本理念や中教審の論点整理で示された「情報活用能力の抜本的向上」、国の動向等を踏まえ、「仙台版情報活用能力学習目標リスト」や「情報活用能力の育成に向けた年間指導計画」の作成例の見直しに努め、各種研修や訪問等の機会を通して周知するなど、各学校の取組の改善を図っていく。
2	ICTを活用した多様な学びの充実	(1) 多様な学びの場、居場所の確保 オンライン授業「杜のEネ!」 メタバース「杜のひろば・Cーリンク」 (2) 「心の健康観察」の活用	・とても良い取組。不登校になる前のこどもも、気軽に相談できたり、わからないところだけ参加できるような形に ・保護者やこどもに情報が届くような工夫を ・「心の健康観察」を2週間実践した。こどものちょっとしたリアクションや主張をすぐに教員が見取り、声がけなどの対応ができた。具体的に進めてもよいのでは。	教育相談課	(1) 多様な学びの場、居場所の確保 ・登校に不安や悩みを持つ児童生徒以外の教育相談全般については、関係部署に対応を働きかけていきたい。また、メタバース「杜のひろば・Cーリンク」の対象者については、課題を整理しながら、その方向性を探っていきたい。 ・現在は、学校を通じまなびポケットを活用しながら、定期的に情報発信を行っている。今後は、学校だより等と一緒に町内会へのチラシを配布するなどの方法も検討していきたい。 (2) 「心の健康観察」の活用 ・「心の健康観察」は、「まなびポケット」にリリースされており、どの学校でも実施可能となっている。実施時期や時間帯、実施学年など、実態に応じて活用し、心や体調の変化の早期発見に役立てている。 ・児童生徒のSOSをキャッチした後に、教職員間で情報を共有し、最適な支援につなげられるよう、スクリーニングや支援会議等の活用が望まれる。教職員の負担感にならないよう配慮し、活用の好事例や効果等を各校に情報提供して活用の推進を図っていく。
3	1人1台端末活用の推進	(1) 端末の有効な活用 (2) 教科の違いや教員の意識の違いによる利用頻度差	・中学校へ重点的にサポートを ・苦手な教員には抵抗感がある ・小学校で端末を活用してきた土台をもとに、中学校での活用推進を ・研修受講状況の把握と、ICT活用指導力の状況から、研修受講の必要なところに戦略的な働きかけを ・やる気のある教員は多い。活用例の周知や、模範となる授業をもっと見る機会がほしい ・教員による端末活用の差をなくしてほしい ・OJTの活性化 ・技術科や情報科に頼らない、教科等横断的な取組が必要	教育センター	(1) 端末の有効な活用 ・希望制でOJTサポートやICTレベルアップ研修、新規採用者向けGIGAスクール端末活用研修を実施し、教員のICT活用の支援を行った。 ・中学校対象の授業づくり研修やトピック研修、授業づくり訪問で具体的な活用方法を紹介する。 ・次年度に向け効果的な研修となるようにセンター研修2026の改訂などの検討を行う。 ・GIGAスクール構想に関連する様々な研修で、学校OJTと端末活用の重要性を説明し、意識向上を図る。 ・ICT活用がテーマの授業づくり訪問で、助言を通じて実践的な支援を行っている。 ・授業づくり訪問の活用事例をGIGAスクールサポートサイトで発信し、ICT活用の好事例を共有し、改善を促進した。今後は、リーディングDXの事例を教育DX（GIGAスクールサポートサイト）で発信していく。 ・仙台版情報活用能力学習目標リストに基づくプログラミング的思考の視点を取り入れ、教科等横断的な授業づくりの推進を図るため教科の枠を超えた研修を検討する。 (2) 教科の違いや教員の意識の違いによる利用頻度差 ・教科研修において、「ICT・情報活用力」の視点を取り入れた内容の研修を検討する。 ・1人1台端末の活用を取り入れた研修内容をさらに検討し、学校間、教員間の格差をなくすようにしていく。 ・次年度のトピック研修「プログラミング教育研修」では、プログラミング的思考を中心とした教科特性に応じた研修を検討する。
4	仙台版GIGAスクールステップアップ研修体系図の活用	(1) 現場の認知度の低さ (2) 利用の推進	・希望研修を申し込む4月の時期に周知を ・教員の活用状況や使い勝手の確認、体系図に基づいた研修を周知する方法の検討が必要	教育センター	(1) 現場の認知度の低さ ・「仙台版GIGAステップアップ研修体系図」の具体的な利用方法について、2月実施「教育センター説明会」で周知する。また、年間を通じてICTにかかわる研修で紹介する。 (2) 利用の推進 ・中堅研修、2年次研修で実際に操作し、利用について説明を行った。 ・教育センターHPのトップページに教育DX（GIGAスクールサポートサイト）というボタンを設置し、情報が簡単に取り込めるようにした。 ・「仙台版GIGAステップアップ研修体系図」の使い方について理解しやすいように説明を掲載した。今後は、GIGAスクール構想に関連する様々な研修において、仙台版GIGAステップアップ研修体系図の活用の仕方について周知していく。
5	学校と保護者の連携	(1) 学校の取組の周知 (2) 学校と家庭の連携した情報活用能力の育成	・おたより等での紹介など、もっとこどもたちが何をしているのか周知を ・情報活用能力とは何か、それを学校でどう教育しているのか、家庭との共有が大切 ・持ち帰りの推奨やおたより配布、ワークショップ開催等により連携を	教育センター 教育指導課	(1) 学校と保護者との連携 ・令和7年度GIGAスクール推進担当者研修会で「情報モラル」「家庭への啓発」をテーマとして設定し、実践を促す研修を計画的に3回実施している。今後も、保護者への情報モラル教育の重要性について周知を図る。 ・児童生徒の取組の様子を学校だより等で保護者に周知したり、授業参観や懇談会等で保護者と一緒に考えたり、話し合ったりするなど、学校と家庭が連携しながら情報活用能力の育成を図っていくことができるよう各学校への支援に努めていく。